

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人よこはま地域福祉研究センター

②施設・事業所情報

名称：げんきっず城山保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：園長 平川 恭江	定員（利用人数）： 60名（63名）
所在地：〒252-0101 相模原市緑区町屋1-5-14	
TEL：042-782-6555	ホームページ： https://fuku-mirai.or.jp/info_school4
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 2015年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人みらい	
職員数	常勤職員： 10名 非常勤職員 12名
専門職員	保育士 20名
施設・設備の概要	（居室数）保育室 6室 （設備等）事務室 洗濯室 みんなのトイレ 相談室 一時保育室 シャワールーム 配膳室 倉庫 職員更衣室

③理念・基本方針

<p><保育理念> 夢見る力と大きな感動を</p> <p><保育方針> 子ども・保護者が安心できる保育園 健康・情緒の安定・自己を発揮できる環境設備を整える 自然との触れ合いを通じた興味・関心の育成 地域と深く関わり、社会性を養成する 「非認知能力」「主体的、対話的、深い学び（アクティブラーニング）」を重視する</p> <p><園の保育目標> 子どもの安全を第一に 「健康で明るい子ども」 「自分で考えて行動できる子ども」 「自分の思いを表現できる子ども」 「思いやりのある子ども」</p>
--

④施設・事業所の特徴的な取組

<p>自然豊かな環境の中にある保育園です。</p> <p>0・1・2歳児はリトミック、3・4・5歳児は体操教室と基礎体力を培う保育を行っています。戸外に出る機会（散歩）を積極的につくり、地域の方々との関わり（挨拶など）、交通ルールを学び、四季折々の自然を肌で感じることで、探求心旺盛で元気な子どもを</p>

育てています。

子どもが生まれながらに持っている能力と好奇心を失わずことなく子ども自ら発達しようとする力を引出し、感じたり考えたり試したり工夫したりできる環境を用意し保育を行っています。

幼保小中が連携を取り合い子どもの成長を見守っています。小学校との交流会を実施して継続的な繋がりを大切にしています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2020年 5月 29日（契約日） ～ 2020年2月8日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	回（ 年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

◆豊かな自然環境を生かした保育活動を展開し、四季の移り変わりを感じながら子どもの探究心を育てています

園の周辺は自然豊かな公園や森に恵まれていて、自然環境を最大限に生かしたダイナミックな保育を展開しています。天気の良い日には片道30分～40分かけて散歩に出かけています。散歩の道程には、緑豊かな河川や牛舎、畑、神社、坂道などがあり、子どもたちは紅葉を楽しんだり、畑についた足跡をみて想像を膨らませたりしています。公園や森に着くと、全身を使って走ったり、跳んだり、よじ登ったり、傾斜をすべって遊んだりしていました。倒木を見つけると何人かでもたがって電車ごっこが始まります。大きな落ち葉を見つけるとお面に見立てて遊びます。風が吹きはらはらと舞い落ちる落ち葉を見上げたり、どんぐりを拾ったりと、四季の移り変わりを全身で感じ、子どもの探究心を育む保育を行っています。保育士は子どもの想像力が膨らむような声かけをして、遊びが広がるように関わっています。保育方針の「自然との触れ合いを通じた興味・関心の育成」を、日々の保育のなかで実現しています。

◆子どもの発達の瞬間を捉え、関係機関と連携して子どもの発達を支援しています

子ども一人一人の発達について「発達チェック表」を用いて保育士が記録しています。発達チェック表は10枚程度に渡るチェックリストで、人間関係・言葉・表現・環境・健康（食事・排泄・午睡・着脱・清潔・体の発達・遊び・危機管理）という大分類について、より細かいチェック項目を立てています。例えば、「2つ以上の言葉を話す」「名前と年齢が言える」など発達段階に合わせた項目があり、できた年齢と月を保育士が記録しています。このチェック表に基づき、子どもの発達段階をきめ細かく把握し、発達を的確にとらえた指導計画の策定に役立てています。また、子どもの発達について、囑託医や相模原市緑子育て支援センター療育相談班と連携しており、この発達チェック表を役立てています。「健康台帳」には、医師の発達に関する所見と、保育士の所見が一覧になっていて、連携しながら子どもの発達を見極めていることが記録からも分かります。

◇改善を求められる点

◆理念や方針の実現に向けた中長期計画を作成し、具体的な目標を事業計画に反映していくことが期待されます

園の3～5年後の将来展望として、園庭の保育環境を整備していきたいと考えています。自由な発想で子どもたちが主体的に園庭で遊び、園庭の植物を使って遊びの幅が広がっていくような自然豊かな環境や、高低差をつけて子どもたちの感覚を刺激するような環境設定を目指しています。今後、これらのことを含む将来展望を、中・長期計画にすることで可視化していくことが期待されます。中・長期計画に対して、今年度は何を実施するかといった具体的な目標を、職員と話し合いながら年度ごとに定めて事業計画

に反映させていき、職員全体で振り返りをしながら、理念や方針が実践につながるよう取り組みを進めていくことが期待されます。

◆さらに保育の質を高めていけるよう、園内研修を工夫していくことが期待されます

今年度は、保育室内の環境設定を課題として、1つのクラスの保育環境を取り上げて園内研修をしたいと考えていましたが実現には至っていません。保育の質を高める園内研修については、職員から要望が出ています。そして、子どもの年齢・発達に応じた玩具の種類や量など保育室の環境設定については工夫の余地も見られます。例えば、各クラスの保育環境や玩具など実践面についてアイデアを発表し、職員間で共有するなど、保育の技術の向上につながる研修を企画することも一案です。子どもが生まれながらに持っている能力と好奇心を引き出す保育の環境設定に向けて、研究しあい高めあっていけるよう、職員が研修の企画段階から関わり、園内研修を充実させていくことが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

開園4年目で初めての第三者評価を受審しました。コロナ禍で、色々と制約がある中での受審となり、本来であれば評価機関の方が来園されて、職員説明会となるところがリモートでのスタートとなったことも今までと違ったことだと思います。

事前に職員全員で取り組んだ自己評価の振り返りで、当園の良いところや改善点、今後の課題などを見直すきっかけとなりました。

利用者アンケートでは、評価機関より「回答率が良いです」とお話を頂き、忙しい日々の中、多くの方に回答のご協力を頂き感謝の気持ちでいっぱいです。結果を確認したところ課題が明確になりました。これからも保護者の方に信頼していただけるようきめ細かく対応していきたいと思います。

職員アンケートでは、園運営についてもっと職員と共通理解のもと進めていく必要があることを痛感しました。

評価機関の皆様には丁寧なヒアリングや保育観察をしていただきました。実地調査日は両日とも天候に恵まれ、自然豊かな園周辺散歩の様子を見ていただきました。自然との触れ合いを通して興味や関心を育んでいるのが見て取れること、そして保育に携わる保育士が子ども一人ひとりに心から寄り添って保育をしていることに感銘したと、お言葉をいただいたことはこれからの保育の励みになることと思います。今回の受審でご指摘いただきました課題を心に刻み、更なる質の向上に向けて職員と共に歩んでいきたいと思っております。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり